

<p>事例 その他</p> <p style="text-align: center;">学生ボランティア</p> <p style="text-align: right;">～名城大学～</p>	<p style="text-align: center;">本事例の中心人物 学務センター事務部長</p>
---	--

事例内容

【概要】

名城大学では、学生が主体となる「ボランティア協議会」を発足し、地域クリーンアップや防犯パトロール、災害発生地域における復興活動等、積極的なボランティア活動を展開している。防犯パトロールについては、大学周辺のパトロールを行ないながら他大学と連携し、「地域学生防犯パトロール隊」を結成するなど、特色ある取組みがなされている。

【背景】

学生が自主的に取り組んでいたクリーンアップ活動において、規模を拡大したいとの要望があがる中、時を同じくして名古屋市が「安心・安全で快適な街づくり」を提唱した。これが良い機会となり、大学として学生のボランティア活動を支援しようという動きが広がり、平成 16 年 7 月に「ボランティア協議会」が設立され、大学として学生のボランティア活動を支援することとなった。

【取組み内容】

ボランティア活動を希望する学生は、「ボランティア協議会」に登録することにより、活動情報を即座にメールで確認できる体制を構築している。登録を希望する学生に対しては、ボランティアには責任が伴うことなど、その主旨を十分に説明している。

また、活動に参加する際の必要経費は自己負担を原則とするが、ボランティア保険の加入費は大学が負担するなどして支援を行っている。

<クリーンアップ大作戦>

毎月 2 回程度の開催で地域のクリーンア

ップ活動を行っている。教職員も毎回 20 名前後参加している。

<防犯パトロール>

パトロール隊は 40 名から 50 名で構成され、当初は警察官を目指す男子学生が中心であったが、現在は全学部の学生が登録している。参加する学生には警察の事前指導を受けることを義務付け、警察と連携し、活動の安全面には十分配慮している。また、パトロール当日は可能な限り警察官 1 名が同行し、急な事態に備えている。

「地域学生防犯パトロール隊」は、名古屋市天白区に設置されている東海学園大学、名古屋女子大学に対し、パトロールへの参加を呼びかけ実現した。現在、各大学周辺をパトロールすることは勿論、月に 1 回、参加大学による合同パトロールを行い、情報交換と学生・教職員間のネットワークづくりに繋がる取組みとなっている。

【結果】

学生の自主的な取組みを大学として積極的に支援することにより、潜在的な意欲が目に見えるようになり、キャンパス全体の活性化に繋がっている。

また、ボランティアにより、学生が積極的に社会に貢献するという以外にも、参加した学生のコミュニケーション能力が飛躍的に向上したり、学生の行動や意識に変化が起こるなど、日常的な正課教育だけでは得ることができない実行力、行動力の養成や信頼感の醸成といった人間の内面的な成長についても効果があった。これらは学生主体として進めてきた結果として得られたものであるが、その教育的な付加価値は非常に大きい。

なお、「地域学生防犯パトロール隊」の活動については、防犯セレモニーで警察からの

参加要請があるなど、地域にもかなり浸透しており、学生・大学に対するイメージアップが顕著に表れている。

成功のポイント

内外の機運を捉えた取組み

- ・学生の地道なボランティア活動に対し、大学が支援することが決定し、平成 16 年 7 月に「ボランティア協議会」が組織化された。
- ・大学が、学内アンケートの実施や既存の学生ボランティア団体の活動の様子などを通して、学生のボランティア活動に対する熱意や動きを的確に捉え、機会の創出に協力していた。
- ・新聞等にも取り上げられ、学外からボランティア活動の活発な大学として認知がなされてきている。

区内の大学間での連携

- ・他大学との連携は、学長のリーダーシップにより進められた。他大学との連携により学生間、教職員間の交流が生まれ、より地域に根ざした活動になっている。

地域に密着した取組み

- ・名古屋市では「安心・安全で快適なまちづくりなごや条例」が平成 16 年 10 月に公布された。
- ・地域の自治会や警察、区内の大学と連携したボランティア活動を実施している。

しっかりした運営管理

- ・学生の自立的活動を基本とし、ボランティア活動だけではなく、参加前の教育・研修や活動報告会、組織の運営管理も含め、学生が責任を持って行っていた。大学のバックアップは最小限として、学生の継続する活動として意識されている。

今後の課題

ボランティア活動内容の発展と選定

地域からの期待は高まっており様々な要望が寄せられている。現在の「清掃活動・災害援助活動・防犯活動」以外の活動へどのように発展させていくのか、また地域からの要望をどのように吸い上げ整理し活動を選定していくのかを、検討していくことが必要となる。

参加者の拡大と安全確保の関係

誰でも気軽に参加できる活動を広げること考えているが、参加者・活動範囲を拡大する場合は、安全の確保が重要である。（特に防犯パトロール等）

組織と活動の維持

組織と活動が継続して維持されるためには、組織の運営管理だけではなく、継続した学生の活動となるような大学としてのバックアップが必要である。また、それに係わる人材育成も必要である。

ボランティア活動への誘因

教育的効果などが顕在化している場合や、参加を迷っている学生の決断を促進させる誘因（例：単位としての認定）の検討も必要である。

委員の所感

学内外の機運を上手く捉え、学生の活動を大学が積極的に支援し、十分な活動実績が出ている。また、学生の教育上の効果（特にコミュニケーション能力向上）・社会からの評価も含め、副次的な効果も出ている。

「ボランティア協議会」の活動が、結果的に、大学自体の評価の向上にも繋がるなど大学側にもメリットが出ており、今後も継続・発展し大学の社会的責任に資する活動となることを期待したい。